

## 研究協力のお願

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

研究課題名： 血管撮影装置アプリケーションを用いた過還流症候群発症リスクと予測因子の検討

### 1. 研究の対象

2018年7月～2021年9月に昭和大学横浜市北部病院で頸動脈狭窄症に対して頸動脈ステント留置術を受けられた方で、血管撮影装置アプリケーションである2DPerfusionを撮影した方

### 2. 研究目的・方法

脳梗塞などの原因となる頸動脈狭窄症の治療におけるカテーテルを用いた頸動脈ステント留置術(CAS) (※1)術後の重篤な合併症の一つに過還流症候群があります。「過還流症候群」とは、術前と術後を比較し、術後の血流の流れが1.5倍以上に上昇することと定義されています。そこで術後に血流の流れの上昇によっておこる過還流症候群を抑えるために、術前後の脳血流量を把握することが重要です。脳血流量を把握する検査は核医学検査である脳血流シンチグラフィ(※2)が一般的ですが、手技が煩雑でコストも高く、すべての症例において行われるものではありません。近年、血管撮影装置を用いた脳循環動態をカラーマッピングにて定量的に把握することができるアプリケーション(2Dperfusion color mapping: 以下2DP)が開発されました。そこで本研究は、血管撮影装置で脳循環動態が把握できる2D perfusionを用いることにより、過還流症候群のリスクを事前に予測することが可能か検討を行います。

本研究では、頸動脈狭窄症に対して頸動脈ステント留置術を受けられた方で、血管撮影装置アプリケーションである2DPerfusionを撮影した方の患者データを使用します。患者データは、病院内の診療録管理室にて「3. 研究に用いる試料・情報の種類」に記載した情報を取得します。

### 研究期間

昭和大学 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後、委員会から発行される「結果通知書の承認日」より、

昭和大学横浜市北部病院病院長の研究実施許可を得てから2023年3月31日まで

### 用語説明

※1 頸動脈ステント留置術(CAS) : カテーテルによる治療。血管の内部にカテーテルを挿入して、首の血管の細くなった部分をバルーン(風船)やステント(金属の筒)を用いて拡張する治療方法  
 ※2 脳血流シンチグラフィ : 脳組織に集まる放射線性の医薬品を投与して、その分布を画像化し、脳の血流を評価する検査。

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

情報 : 2D perfusion 撮影で得られる解析データ

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 :

所属 : 昭和大学横浜市北部病院 研究責任者氏名 : 先山 耕史

住所 : 224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号 : 045-949-7477